

第13回碩田中学校区適正配置地域協議会 会議要旨

日時：平成25年10月29日（火）18：30～20：30

場所：荷揚町小学校 体育館

○出席者37名、欠席者1名

1. 開会のことば

- ・江藤副会長より、開会のことば。

2. 会長あいさつ

- ・吉田会長より、開会に当たってのあいさつ。

3. 議事

(1) 新設校の位置に関する意見の取りまとめについて

①これまでの協議を踏まえ、3候補地に新設校を建設した場合の意見について

- ・新設校の位置に関する最終の意見発表の場とし、3候補地についてそれぞれ20分程度の時間を設定する。

<荷揚町小学校地>

荷揚校区としては、児童の生命・安全を優先するのが基本であり、登下校、在校中の学校環境の中での生命の維持を最優先に考える。津波対策としては、在校中は校舎建築で十分な配慮がなされると考えるが、登下校中で十分な配慮がなされるのかが問題点として考えている。荷揚町小校地を新設校にした場合、荷揚校区周辺には高層の公共建築物や私企業のビル等があり、登下校中の子どもたちの生命、安全性が守られると思うが、住吉小校地には土石を高く盛り、天端面を平坦にして避難場所とする「命山」を築けば、避難タワーより半永久的に使用でき避難面積も広く、住民の方々も含め多くの人々の命を救える。また、日常的にも公園として活用でき財政効率も高いと思う。

他の候補地を選ばなければならないとすれば、碩田中学校地は避けたいとの意見である。海からの被害と共に川からの被害も十分に考慮しなければならないと考えるが、現状では住吉川の堤防と海面の高さの差があまりない状態であり、仮に住吉川から津波が遡上した場合には、現状の堤防では支えきれないと思うし、そうなった場合に一番被害を受けるのは碩田中学校ではないかと危惧する。ここに小学生を通わせることは、保護者の中には不安に思う方もおり、現状でも来年の新一年生の中には、荷揚町小学校に通わずに隣接校を選択する方がいると聞いている。仮に碩田中学校地に統合校が新設されれば、より多くの方が隣接校を選択するのは必至で、徐々にコミュニティの維持も困難になる可能性もあるのではと心配している。

荷揚町小学校は校地が狭いが、隣接市有地をあわせ敷地を複層にすることにより、運動場や校舎の用地を確保することもできると思うので、現在地でも工夫をすれば十分対応できると思う。むしろ子どもの命を救うことを第一義として、まず新設校の位置を決定すべきではないかと思う。

小中一貫教育に関しては連携型で十分ではないかと考える。碩田中学校が住吉校区にあるので、小学校を荷揚校区にすれば、碩田中学校区の中でバランスの良い配置になるかと思う。そ

のような配慮があると地域全体としての位置的なバランスもできると思う。

今までの協議の中では、校舎の機能、地域コミュニティ、小中一貫教育については、どこの候補地に建っても同じではないかと思う。ただ、やはり災害面においては日本中が災害に対して真剣に取り組んでいる時に、海に近い場所に新設校を建設することが、保護者の心理面からした時に本当に不安があると思う。碩田中学校地も川を考えると、どうしても避けたいと思う。

荷揚町小学校は隣接する小学校がたくさんあり、荷揚町小学校に入学するよりも近い学校がある。あるマンションでは荷揚町小学校と隣接校の春日町小学校に児童が分かれて通っているところもあり、非常に地域としてのバランスも崩れていて、現在でさえ、隣接校が目前にあるのに荷揚まで行く必要がないとのことで、隣接校を選択している保護者もいる。なるべくなら荷揚町小学校に新設校を立地し、隣接校を選択するというをなくしたいと考える。

環境面では、140年の歴史、文化の発祥地である。人口がこれから少なくなっていく中、全国的に都市型に移行するまちづくりがされているが、大分市も中心市街地において安心安全な住みやすいまちづくりを計画されている。この中心部だけは人口が増加しており、20年、30年先を考え、荷揚校区に小学校を造って良かったと言える時がきっと来ると思う。

<中島小学校地>

中島校区としては、新設校の場所はやはり中島小学校地が立地条件の上でも最も良いと思う。新設校に求められる要件は、まずは子ども達が日々安全で通学しやすい環境を確実に確保することと考えており、できるだけ碩田中学校区の中央に選択すべきである。また、学校は地域の人のにとっても避難場所、地域コミュニティの施設であることから、できるだけ碩田中学校区の中央部にあることが必要であり、更に校地として特に懸念される材料は特にないと考える。こうした要件を考慮すれば中島小学校地以外の立地はあり得ないと考える。

荷揚校区は防災上の観点から少しでも内陸部との考え方では利があるが、中央部から外れており通学距離が大幅に長くなる児童が増え、保護者や地域にとっては「自分の校区だけなぜこんなに遠くなったのか」という不公平感が生じることになるかと思う。また校地面積が不足しているとのことで、多層階構造の施設や第2グラウンドを設置する等の対応が必要になると思うが、そうすると予算の高騰や利便性に色々不都合な点が生じるのではないかと考える。

住吉校区は施設一体型小中一貫教育の導入とのことで碩田中学校地を提案しているが、連携型を含めた型の比較検討を十分に行い、結論を得た上で判断をすべきであるが、比較しての協議はされていない中で、現時点で導入を是とすることは拙速であるとする。保護者や地域の関心が高まっている中で、施設一体型の構想を打ち出しても、保護者や地域から合意を得られるのか非常に疑問である。小中一貫教育の目指す方向性や理念、その理念を達成するための教育の手段や方法、また一体型とすることで児童生徒数は増えるが、児童生徒の個別の課題への対応などテーマは多く、個々に検討するとなると相当な時間が必要である。また、荷揚校区と同様、中央部がないので不公平感が生じることが予測され、更に学校周辺に避難ビルがなく海や河川に近いことから、津波災害への不安が考えられる。荷揚町小学校地や碩田中学校地を選択した場合は、メリットがある反面、マイナス効果が非常に大きく、総合的に勘案するとやはり新設地は中島小学校地にすべきだと考える。

中島小学校では、連携型で非常に顕著な成果を挙げており、先般の中島小学校で連携型に関する小中一貫教育公開研究発表会があったが、活動の成果が色々報告されていた。このような教育関係者の厚い取組があれば、連携型の更なる進化発展が期待できると確信している。一朝

一々に制度を変えるのではなくて、3年間にわたってようやく定着化をし、関係者の努力で成果が見え始めた連携型を今後とも継続し、真価を計るべきだと考える。子ども達が教育によってどんな力を身につけていくか、色々と方法や手段を詮索するよりも、学校関係者をはじめ、地域や保護者の人たちの熱意や努力に負うところが大きいのではないかと考える。

中島校区でも新設校の場所によっては隣接校を選択したり、転居を考えているとの声もあり、この動きが拡大すればせつかくの統合の目標が達成できなくなるばかりか、校区の見直しに繋がることも考えられる。新設校の場所によっては今後の児童数が大幅に少なくなることも危惧され、この地域の将来を担う児童の流出に歯止めをかけられる選択をしなければ、地域の活性化や発展も期待できないと考える。統合に併せて新たな教育施策の導入を考えるよりも、子ども達が日々安全で楽しく学校生活を送り、保護者や地域と学校が連携を密にすることができる場所を選定し、統合の成果を早く創出することを最優先し場所を選択すべきと考える。

<住吉小学校地>

住吉校区の委員としては、本協議会と教育委員会でも気付かない学校づくりの良案を教育委員会に教えていく場ではないかと考えている。大分市全体の市民が納得できる案に税金を使うべきだと思うので、協議会は教育委員会に納得できる案を示して、将来を見据えた学校教育に勇気を持って教育委員会が発表できるように導くのが、私たち委員の役目ではないかと思う。将来を見据えても、この学校に子どもを通わせたいと思える学校にするチャンスが、今この施設一体型小中一貫教育にあるのではと思う。小学校区だけで小学校を活性化しても碩田中学校が発展していくわけではないので、中学校区で考えて良いのではないかと思う。30年後には大分市は0歳から15歳までの人口比率が現在の14.4%から10%を切る可能性があると言われており、今後はさらに学校を選ぶ時代が加速して、特徴のある学校ほど生き残る傾向になると思われることから、碩田中学校区で施設一体型小中一貫教育を武器にうまく実施して、経験を積んでいながらまち全体で学校を支え、住んででも行きたい学校、ぜひ住みたい学校に変更していくチャンスがあると考えます。

先日の小中一貫教育公開研究発表会の全体会での各先生方の発表では、「交流」、「時間」という言葉がたくさん出てきたが、「交流が円滑にできる」、「時間を有効に使えている」とのことではなく、逆に「交流の難しさ」、「時間が足りない」との意見であった。先生方は時間との戦いで連携型を凌いできており、もし小学校だけの統合で終わった場合、小中連携が更に強化され今以上の結果が求められることになり、相互運営の連携教育では先生の負担が増える一方と受け止めている。それであれば、日常からコミュニケーションがとれる施設一体型小中一貫教育校であれば、ひとつの職員室の中で毎日交流し時間を有効に使え、学校内にいるだけで先生間の交流ができる空間づくりができる学校になる。

小中一貫教育は、先生方がたくさんの壁を打ち破るだけの結束力が必要になるが、声を上げにくい教育環境が現状ではあるので、それを解決できるように先生方が思い切って学校運営、教育に打ち込める環境を保護者や地域が整え、そして守っていくことが遅しくも優しい子ども達への教育に結びついていくのではないかと考える。更に小学校の英語授業が2020年からは小学3年から必修化するが、連携では中学校の先生の負担が増えるので、施設一体型で日頃から連携をとり、小学校の先生が英語の授業力を中学校の先生から学ぶ環境が必要と考える。

津波の到達時間は、距離的に何十kmも離れているような地域ではないので、ほとんど変わりはないと考える。また、現在大分川の堤防の第一工事が終わり、液状化に対する耐震工事も

終わっている。更に豊海町の5号地では、堤防の高さが6mから8mの工事に取りかかっており、大分県の津波の想定としては5mから6mと考えて、大分県としても地域に安心してもらうような工事に入っている。

碩田中学校の2万1千㎡、住吉小学校の1万6千㎡を含めて、碩田中学校地の中に小学校を建てれば仮設校舎が必要なく、他の候補地であれば仮設校舎に入らなければならない。碩田中学校地に建設すればそのような問題も解決し、また周辺には教育センターや保育園、幼稚園があり、少し離れた位置にグラウンドもある。非常に有効な土地があり、小中一貫教育にもっともふさわしい地域として、大分市の北の中心都市、学園都市になるのではないかと思う。

<主な意見>

【委員】荷揚校区の発表を聞いて、児童生徒の減少を止めるためには荷揚町小学校地に建設するのが一番良いのではないかと思う。仮に碩田中学校地に建設した場合、荷揚校区の方は金池小等の隣接校に行く可能性が高く、また施設一体型の校舎を建設するとなれば長期間工事中で、進学等を考えた時にかなりの方が他の学校に行くのではないかと思う。教育委員会は児童生徒を減らさない方向で判断しないと、碩田校区自体の児童生徒数が減り、それに伴い教員も減り、学力の低下に繋がると思う。

【委員】中島校区の発表の中で、「教育委員会は、今後小中一貫教育の型について比較検討を行うつもりがあるのか」とあったが、協議会として碩田校区にとって連携型が良いのか、あるいは施設一体型が良いのかと協議をする予定はあるのか、教育委員会の見解を聞きたい。

【事務局】小中一貫教育の型については、以前の会議で協議すべきではないとの意見や専門家の意見を含めて慎重に協議すべきではないかとの意見もあった。教育委員会としては、協議会でいただいた意見を基に、今後実施計画を作る中で説明したいと思う。

【委員】実施計画を作る段階であれば、協力を仰ぐという程度になるような気がする。やはり実施計画を作る前に地域協議会で協議し、地域住民も巻き込んで話し合わない、仮に施設一体型になれば碩田中学校の保護者も納得しないと思う。

【委員】基本計画の中では、必ずしも連携型か施設一体型かということで、計画が策定されているわけではないと思うので、教育委員会に十分検討していただきたいと思う。

【委員】住吉校区の発表の中で、津波の到達時間に3校とも差はないとの意見だったが、津波は北側から襲ってくるのが考えられ、その際には住吉・中島・荷揚校区の順に到達することは決して変わらないと思う。その意味で3校に差がないというのは違うと思うし、子どもにとっては逃げる時間が1秒でも多くあることが救われることに繋がる。また、住吉川の堤防も気になる場所であり、問題点ではないかと思う。

【委員】住吉校区の発表では、小中一貫教育の理念としての考え方は分かるのだが、そのことと施設一体型はどう繋がるのか、また施設一体型でどのように課題が解消され、改善されていくのかということがよく分からない。また、他の住吉校区の委員は、施設一体型についてはどのように考えているのか。

【委員】住吉校区としては施設一体型の提案をしているが、PTAの委員以外は子どもがいるわけではなく、学校教育に携わっていないので、そのような面について要望があればPTAの委員に任せている。また、新設校の位置や将来像については、協議会で意見を重ねた中で、教育委員会が最終的に決定すれば、住吉校区としては、それを

する以外にないと考えている。

- 【委員】施設一体型小中一貫教育となれば、碩田中学校区は賀来小中学校や照葉小中学校と条件や地域性が違い、3小学校と1中学校が一緒になるということである。それぞれの小学校が非常に大きな課題を持っており、我々素人が分からないで論じているのではないかと危惧している。賀来小中や照葉小中の見学などを通して、だから施設一体型が良いという考え方は拙速ではないかと思う。

②意見の取りまとめについて

- ・協議会としての新設校の位置について、どのように取りまとめるのかという意見の取りまとめ方について協議する。

<主な意見>

- 【委員】3小学校PTAが主催し、3小学校合同で地域協議会の勉強会を行った。そこで保護者から様々な意見が出たが、中島小学校として保護者たちの意見をまだまだ聞き足りていないと感じた。そこで中島小学校としては保護者にアンケートをとり、今後結果を取りまとめるようにしている。3小学校のPTA会員の意見を今一度確認した上で、並行して取りまとめの作業を進めていただければと思う。
- 【委員】取りまとめ方について、委員ごとの意見であればなかなかまとまらないと思うので校区ごとの意見としてまとめる必要があると思う。その際にはおそらく自身の校区内に新設校を建設するのが第1候補と思うので、最終的な取りまとめというのは難しいことから、第2、第3候補と順位付けた取りまとめをしてはどうかと思う。
- 【委員】先程の議論からも分かるように、結果はおそらく想像することができるので、それを取りまとめとしてする必要があるのかと思う。
- 【委員】13回にわたって協議した結果、各校区ともやはり自身の校区に新設校を設置したいとの考え方に変わりがない。投票や多数決で決めることは協議会の性格上、無理があるので、3候補地併記とせざるを得ないのではないかと。しかし、せっかく1年以上にわたって協議をしてきた中で、3候補地とも同じ位置付けとするのか、それともどこか優先するところがあるのかどうか、3候補地併記は前提としながらも1番の候補地を把握したい気もする。
- 【委員】他の候補地に賛否を出すというのは最初から反対だが、これだけ回を重ねて論議しているので、どこに新設校の位置が決まっても、保護者として子どもを、またはお孫さんを碩田中学校区の学校に通わせるのかどうかを委員が意思表示してもらい、それを協議会が参考にしてはどうかと思う。
- 【委員】意見を集約するというのは非常に難しいと思うので、教育委員会の事務局で10項目、20項目でも設問を作って無記名で回収してはどうか。それを教育委員会がアンケートの段階ではこういう考えでした、こういう方向性でしたということを発表するのが1番良いのではないかとと思う。
- 【委員】今まで防災、小中一貫教育、通学環境の3つの協議事項について多くの論議をしてきたので、各委員が3つの協議項目について、例えば中島小学校地であれば、ここは○、ここは△、ここは×などの表を作って、各委員の個人的な考えを集計し、結果が分かるようにするのも1つの方法ではないかと思う。
- 【委員】本日の協議の柱は、委員の真意を出し合うことであつたと思うが、まだ本音が出さ

れていないとの感じを受けた。だから取りまとめに非常に苦労しているのだが、どういふ形であれば委員それぞれの本音が出されるのかが1番大事ではないかと思う。

【委員】最終的に評価項目の軽重をどれだけ重視するかは、各委員によって考え方が違うと思うので、総合評価としてどこに建設するのを是とするのか、あるいはここは避けたいと思っているのか、そのような設問の項目を作らないと、最終的な絞込みとはならないと思う。

(2) 次回の協議について

○意見の取りまとめ方について、会長・両副会長と事務局で協議を行い、取りまとめの案を次回の会議で示し、その内容について協議することを確認する。

(3) その他

・今後の日程について説明する。

○第14回地域協議会は11月26日(火)の18:30~20:30に中島小学校体育館で、第15回地域協議会は12月17日(火)の18:30~20:30に住吉小学校体育館で開催する。

4. 閉会のことば

・瑞木副会長より、閉会のことば。